

Bad Cat

Guitar Amplifier

COUGAR 50 / COUGAR 50H

取扱説明書/保証書

■安全上のご注意

この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読み、火災、感電、人身傷害の危険を防止するために指示を守ってください。



警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡または重症など重大な事故を引き起こす可能性が予想されます。

- △ この機器を分解したり、改造したりしないでください。
- △ 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。
- △ 感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。
- △ 修理は、販売店に依頼してください。
- △ この機器は音量設定により難聴になる可能性があります。音量の調整に注意し、大音量で長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

設置環境に関して

- △ 次のような場所での使用や保管はしないでください。
 - ・ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
 - ・ 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
 - ・ 雨に濡れる場所
 - ・ ホコリの多い場所
- △ この機器の上に液体の入った容器、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。
- △ この機器を、ぐらついた台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。
- △ この機器の上に乗ったり、上に重いものを置かないでください。
- △ この機器を落としたり、衝撃を与えないでください。
- △ この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。

電気、電源に関して

- △ 電源プラグは、必ずAC100Vのコンセントに差し込んでください。
- △ 付属電源コードはこの機器以外には使用しないでください。
- △ 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。
- △ 濡れた手で電源プラグを持って、コンセントに抜き差しをしないでください。
- △ 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。
- △ この機器を移動するときは、電源プラグをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。
- △ 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外してください。
- △ 落雷の恐れがあるときは、電源プラグをコンセントから外してください。
- △ 完全に電源を切る必要があるときは、この機器のPOWER ON/OFFスイッチを切った後、コンセントから電源プラグを抜いてください。この機器はコンセントに接続されている場合、POWER ON/OFFスイッチがオフになっていても、電源から完全に絶縁されていません。
- △ 次のような場合は、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから外し、販売店に修理を依頼してください。
 - ・ 電源コードや電源プラグが破損したとき
 - ・ 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
 - ・ 機器が（雨などで）濡れたとき
 - ・ 機器に異常や故障が生じたとき
- △ 電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。
- △ アンプの電源をオンにした状態でヒューズの交換をしないでください。また定格を超えたヒューズを使わないでください。（機器の安全の為にヒューズが装備されています。ヒューズは外部の衝撃や寿命で切れることもあります。ヒューズが切れた場合内部に重大な故障が発生している可能性が有りますのでヒューズを交換する前に販売店にご相談ください）



注意

取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険、物的損害の発生が想定されます。

- △ ギター、シールド・ケーブル、エフェクター等のケーブルの接続、取り外しはボリュームを“0”にするか、POWER ON/OFFスイッチを切ってから行ってください。ケーブルを抜き差しする際のノイズは誤作動やスピーカー破損等この機器に深刻なダメージを与える場合があります。

- △ 小さなお子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人の方が、監視／指導してあげてください。
- △ 接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。また小さなお子様の手が届かないように配慮してください。

使用上のご注意

- △ 雑音を発生する装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器とは、別のコンセントを使用してください。
- △ 電源プラグを差し込むコンセントは、この機器にできるだけ近い場所のものを使用してください。
- △ この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- △ 故障の原因になりますのでスイッチやツマミに必要以上の力を加えないでください。
- △ テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- △ 携帯電話などの無線機器をこの機器の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時にこの機器から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器をこの機器から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- △ 至近距離から照らす照明器具や強力なスポット・ライトで長時間同じ位置を照射しないでください。変形、変色することがあります。
- △ この機器の上にゴム製品やビニール製品などを長時間放置しないでください。変形、変色することがあります。
- △ この機器にシールなどを貼らないでください。はがす際に外装の仕上げを損なうことがあります。

お手入れについて

- △ この機器の表面をお手入れする前に、電源プラグをコンセントから外してください。
- △ お手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。
- △ 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

その他の注意について

- △ 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- △ 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかけられないように、特に夜間は音量に十分注意してください。
- △ 他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

■真空管アンプ特有の注意点



警告

真空管は高熱になります！

- △ 火傷に注意し、熱いうちは決して触れないでください。
- △ 放熱には空気の循環が必要なため、背面を壁から**最低15cm以上**離して設置してください。放熱が妨げられると、回路を傷めアンプ寿命を縮めます。また真空管がオーバーヒートにより壊れる恐れがあります。
- △ アンプ使用時には、空気の妨げになるため、決してカバーや布などをかけたりしないでください。



注意

- △ 真空管は振動やショックをあたえないように注意して取り扱ってください。
- △ 品質の良くないアッテネーターはパワーアンプ真空管を痛めますので使用しないでください。
- △ 使用後カバーをかけて保管する場合は、真空管の温度が下がるまで待ってからカバーをかけてください。真空管の温度が熱いうちにカバーをかけると回路がダメージを受けたり、カバーが熱で溶けてしまう恐れがあります。
- △ 電源を入れた直後に、ギター信号を送ると真空管を痛め、真空管の寿命を早めます。また真空管が温まるまで音が出されません。真空管はギター信号を送る前に適度な時間のウォームアップにより寿命が延びます。電源を入れてからギター信号を送るまで、**約1分間**温めるのが適切です。
- △ ギターの信号を送ることなく、長時間電源を入れ続けると真空管の寿命を早めますので避けてください。練習時の休憩や、演奏の合間などには電源を落としてください。
- △ 使用后、移動させる場合は、真空管の温度が下がるまで待ってから移動してください。冷えていない状態で移動させると振動やショックで真空管が破損する恐れがあります。
- △ 出力が弱くなってきたり、音にパンチがなくなってきたり、ノイズが増えてきた場合は真空管が劣化している可能性があります。その場合はまずパワーアンプ真空管の交換をお勧めします。その上でノイズが減らない場合は、プリアンプ真空管の交換をお勧めします。（通常プリアンプ真空管はパワーアンプ真空管の数倍寿命が長いので、まずはパワーアンプ真空管の交換を奨励いたします）

■はじめに

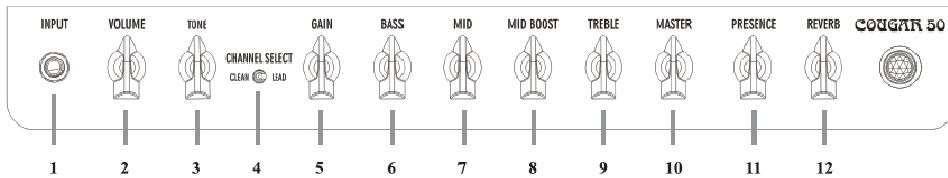
この度はBADCATギターアンプCOUGAR50/COUGAR50Hをお買い求め頂き、誠にありがとうございます。本製品の機能を十分に活用していただくために、ご使用前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。また本書は大切に保管してください。

■特徴

BADCAT COUGAR50/COUGAR50Hは、クラス最高の音質を実現するために開発されたギター・アンプです。オールチューブ（真空管）のクラスAB回路で動作します。CLEAN/LEADのチャンネル切替が可能で、3ボリューム、EQ、TONEコントロールなどの調節により、クリーン、クランチからハイゲイン・ディストーションまで幅広いサウンドを生み出します。

■各部の名称と働き

表側コントロール・パネル



1 INPUTジャック

標準1/4"ジャックの入力端子です。シールド・ケーブルを用いてエレクトリック・ギターと接続してください。

2 VOLUMEコントロール

CLEANチャンネルの音量を調節します。

3 TONEコントロール

CLEANチャンネルのみにかかります。4段階のロータリースイッチになっており、お好みのトーンが選べます。右に回すと、より低音域が強調され、分厚くダークなトーンに変化します。

4 CHANNEL SELECTスイッチ

フットスイッチが接続されていないとき、このスイッチによりCLEANチャンネルとLEADチャンネルを切り替えます。フットスイッチが接続されているときは、このスイッチは動作せず、フットスイッチによって切替を行います。

5 GAINコントロール

LEADチャンネルのプリアンプ・ゲイン・レベルを調整します。

- ・ クリーンサウンドを作る場合は低めセットにし、MASTERコントロールを高めにセットしてください。
- ・ 歪んだサウンドを作る場合は高めにセットし、MASTERコントロールを低めにセットしてください。

6 BASSコントロール

LEADチャンネルの低音域をコントロールします。

7 MIDコントロール

LEADチャンネルの中音域をコントロールします。

8 MID BOOSTコントロール

LEADチャンネルの中音域のブースト音域を可変させます。右に回すと中音域のブーストだけでなく、少しずつGAINとTREBLEも加わります。また、中音域のブースト可変域が低中音域（LOW MID）から高中音域（HIGH MID）へと変わり、GAINも上昇します。効果として右に回すと明るいトーンになり、左に回すと暗く深みのあるトーンになります。

9 TREBLEコントロール

LEADチャンネルの高音域をコントロールします。

10 MASTERコントロール

LEADチャンネルの出力レベル(音量)をコントロールします。

LEADチャンネルのトーンとも連動しており、MASTERコントロールが高めにセットされている場合、高音域を強調するクリーンサウンド向けのトーンになります。MASTERコントロールが低めにセットされている場合は、歪みサウンド向けの低音域を厚くするトーンになります。

11 PRESENCEコントロール

パワーアンプ部で動作し、トーンに高音域を加えます。高めにセッティングするとザクザクした音質になり音抜けが増します。

12 REVERBコントロール

スプリングリバーブの効きをコントロールします。右に回すとより強い残響効果を生みホールで演奏しているような音質に変化します。ルビチューブ製のスプリングリバーブを採用しておりビンテージ感あふれるリバーブサウンドです。

本体裏側



1 電源コード・ソケット

付属の電源コードを差込み、反対側をコンセントに差し込んで使用してください。

△ ヒューズ

電気系統に規定以上の電流が流れると、ヒューズが切れて過電流から電装品を保護し、故障や火災などの発生を防ぎます。もしも電源が入らない場合はコンセントを抜いてから、ヒューズの点検・確認を行ってください。また定格を超えたヒューズを使用しないでください。(機器の安全の為にヒューズが装備されています。ヒューズは外部の衝撃や寿命で切れることもあります。内部に重大な故障が発生している可能性が有りますのでヒューズを交換する前に販売店にご相談ください。)

2 POWER ON/OFFスイッチ

電源のオン・オフを行うスイッチです。

3 STDBY スイッチ

真空管のヒーター以外の各回路の電源を落としてアンプを待機状態にするスタンバイスイッチです。オンと同時にアンプを稼働させることができます。このスイッチを利用することにより真空管の寿命をのばすことができます。



注意 POWER ON/OFFスイッチ、STDBYスイッチの順序

電源を入れる場合: STDBYスイッチがOFFになっていることを確認したうえでPOWER ON/OFFスイッチをONにします。最低1分、できれば2~3分程度経ってからSTDBYスイッチをONにしてください。

電源を落とす場合: STDBYスイッチをOFFにします。しばらく音が出ますので、その音が出なくなったらPOWER ON/OFFスイッチをOFFにしてください。



警告

POWER ON/OFFスイッチをオンにする前に、必ずMASTERコントロールが“0”であることを確認してください。MASTERコントロールが上がった状態で電源をオンにした場合、突然大きな音が出力され聴覚を害する恐れがあります。また突然の過大入力によりスピーカーが損傷することがあります。

4-5 SEND & RETURNジャック (エフェクト・ループ)

4 RETURNジャック

標準1/4"ジャックの入力端子です。外部エフェクター等のアウトプットから接続します。

SEND & RETURNはプリアンプとパワーアンプの間に設定されており外部プリアンプの接続も可能です。

5 SENDジャック

標準1/4"ジャックの出力端子です。外部エフェクター等のINPUTに接続します。

プリアンプ・アウトとしての接続も可能です。

6 FOOTSWITCHジャック

このジャックは標準1/4"ステレオジャックで接続します。別売りのBADCAT BCFS201フットスイッチを接続します。BADCAT BCFS201は2つのスイッチによりCLEANチャンネルとLEADチャンネルの切替とREVERBのON/OFFの切替が行えます。緊急時にはモノラルケーブルで代用することも可能ですが、その場合はチャンネルの切替のみ行えます。(リバースは常にONの状態になります)

7 スピーカー・ジャック

標準1/4"ジャックの入力端子です。スピーカーケーブルを使用し内部スピーカーやエクステンション・スピーカー(外部スピーカー)に接続します。



注意

スピーカーをつないでいない状態では、決して電源を入れないでください。

8 IMPEDANCEスイッチ

スピーカーのインピーダンスを選択するスイッチです。スピーカーのラベルや、スピーカー・キャビネットに記載の「Ohms」もしくは「 Ω 」と記載されている数字に合わせて選択します。1台以上のスピーカーに接続する場合は「オームの法則」に従いインピーダンスを計算し、適正なインピーダンスに合わせて選択します。(例: 8 Ω のキャビネットを2台接続する場合は、4 Ω を選択します)



注意

エクステンション・スピーカー(外部スピーカー)を接続する場合は、スピーカーのインピーダンス・マッチングに注意してください。エクステンション・スピーカーのインピーダンスと本機のインピーダンスをトータルで計算し、適切なインピーダンスで接続してください。間違ったインピーダンスで接続した場合、トランスフォーマー(電源)が壊れる、真空管が焼きつくなど甚大な被害が生じる可能性があります。これは保証対象外です。正しいインピーダンスで接続した場合は問題なく動作します。もし計算方法がわからない場合や「オームの法則」に精通していない場合は、販売店やアンプ技術者などにご相談ください。正確なインピーダンスが解らない場合は重大な問題が起きる可能性がありますので決して接続しないでください。また2 Ω 以下では決して使用しないでください。

■仕様

電圧:	100V, 50/60Hz
入力:	1/4インチ(6.5mm)・フォンジャック
定格出力:	50W (クラスAB回路)
プリアンプ・チューブ:	12AX7 × 3
パワーアンプ・チューブ:	EL34 × 2
出力インピーダンス:	4 Ω 、8 Ω 、16 Ω 切替 (出荷時8 Ω)
スピーカー:	12インチ (セレクション・ピンテージ30)
コントロール:	VOLUME、TONE、CHANNEL SELECT、GAIN、BASS、MID、MID BOOST、TREBLE、MASTER、PRESENCE、REVERB、POWER、STDBY、IMPEDANCE
入出力端子:	(GUITAR) INPUT、(EFFECT)SEND、(EFFECT)RETURN、FOOTSWITCH、SPEAKERS
ヒューズ:	3.15A × 2、200mA × 1、8A × 1、1A × 3
サイズ:	H540 × W615 × D297mm
重量:	24kg
付属品:	電源ケーブル

*製品の仕様は品質向上のため予告無く変更する場合があります。

*フットスイッチは別売りです。BADCAT BCFS201を島村楽器でお求めください。

■故障かな？と思ったら

■電源が入らない。

- ・コンセントに電源プラグは入っていますか？
- ・ヒューズは切れていませんか？

■電源は入るがスピーカーから音が出ない。

- ・ギターのパボリュームが”0”になっていませんか？
アンプのVOLUMEコントロール、MASTERコントロールが”0”になっていませんか？
→ギターのパボリューム、アンプのVOLUMEコントロール、MASTERコントロールを徐々に上げて、音が出るかご確認ください。
- ・ギターまたはエフェクターの出力がINPUTジャックに正しく接続されていますか？
→INPUTジャックにプラグが正しく挿入されているかご確認ください。またエフェクターをご使用の際はエフェクターの出力 (OUTPUT)側からアンプに接続されているかをご確認ください。
- ・エフェクターなどの機器を接続している場合、それらが正常に動作していますか？
→接続している機器を全て取り外し、ギターからアンプへ直接接続した状態で音が出るかご確認ください。
- ・ギター、アンプ間のシールド・ケーブルが断線、または損傷していませんか？
→他のケーブルでもお試してください。
- ・STDBYスイッチがOFFになっていませんか？
→STDBYスイッチをONにしてください。
- ・真空管が壊れていませんか？
→真空管が点灯していない場合や黒ずんでいる場合は、真空管が壊れていますので交換を行ってください。

■ノイズが出る。

- ・アンプの出力により周囲のものが振動(共振)して音を出していませんか？
→設置方法、設置場所によって音色が異なって聞こえる場合がありますので設置方法、設置場所を変えて確認ください。
- ・エフェクターなどの機器を接続している場合、それらが正常に動作していますか？
→接続している機器を全て取り外し、ギターからアンプへ直接接続した状態でノイズが出るかご確認ください。
- ・ギター、アンプ間のシールド・ケーブルが断線、または損傷していませんか？
→他のケーブルでもお試してください。
- ・真空管が劣化していませんか？
→使用環境にもよりますが定期的を使用している場合プリアンプ・チューブ(12AX7)で約3年、パワーアンプ・チューブ(EL34)で約1年ほどで劣化が始まります。期間を大きく超えて使用している場合は交換をお勧めします。
- ・ギターの弦高が正しく調整されていますか？
→弦高が低すぎると、弦が指板に当たりノイズを発生することがあります。

■故障などの場合

本製品は、厳重に検査を終えた上で出荷されております。故障かな？と思ったらお手数ですが以上の項目をぜひご確認ください。確認後、故障の原因が分からない場合は、お買い上げいただいた販売店にお尋ねください。また、修理をご依頼の際は、速やかに修理を行えるよう、症状を詳しくお伝えください。